

## 小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

( 網掛け部分は外部評価の調査項目 )

( 別紙 3 )

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町の一員、町の宝として尊敬し、安心、満足、信頼を提供できるよう理念としケアに繋がるよう努力している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティング時に全員で唱和している。事例を理念と照らし合わせながら話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	面会時や家族懇談会の時に話し合っている。月1回発行の「ふれあい通信」にも掲載している。運営推進会議でも取り組みや活動報告を行い理解していただけるよう取り組んでいる。	○	
2. 地域との支え合い				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所との日常的なつきあいはできていないが、外出時などは、あいさつを交わしている。近くの商店街をできるだけ利用している。	○	来春に住宅街へ移転予定であり地域とのなじみの関係が深まるようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り等の地域行事には、参加している。今年より校区の小学校の文化祭や発表会等に参加し今後、小学生の見学を受け入れ予定である。	○	その他の地域活動への参加を模索中である。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症という疾患について話し合い、認知症に対する不安感がなくなるよう職員の介護力の向上に努力している。	○	ホームの取り組みなどを地域に発信し認知症に対する理解を深めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容の出来ていない点を見直しどのようなケアに結びつけ目標とし改善できるかを話し合い取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の予定、報告を行い家族や地域の方から質問や意見をいただいている。会議内容は全家族、全職員に報告しサービスの向上に活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	業務や人事においても「相談」という形で頻繁に市町村担当者や面談し、話すことを心がけている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営者は、司法書士から話しを聞く機会を設け、成年後見制度について学んでいる。	○	勉強会などで全職員が周知できるようにして行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、虐待予防、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約時には書面に添って説明し理解納得がいただけるようにしている。入居後も説明を必要とされる場合、新しい取り組みがある場合は十分に説明している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1回家族懇談会を行い広く意見をいただいている。懇談内容は、文書にし、全職員が把握できるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日々の様子などは、毎月「ふれあい通信」で家族に報告している。又その中に預かり金の出納帳、職員の異動についても記載している。健康状態の変化は、状況に応じ電話で対応している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や懇談会などで意見をいただき、不満、苦情に対しては緊急ミーティングを開き対応できるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開き意見や提案を聞くようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	翌月の一ヶ月分の勤務表は作成しているが、3:1の人員配置数にこだわらず、職員の増員の調整を含め必要に応じた対応を心がけている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため異動はないが、離職希望者に対しては話し合いの場を持ち離職せずに済む方法を一緒に考えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたり性別や年齢を理由に採用しなかった例はない。職員に対しても、様々な権利が十分に保障されるように配慮している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	過去数回、全職員に人権についての講習を受講させている。ビデオによる学習も取り入れている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の案内をし、希望者には勤務の調整・研修費用の負担も含め、奨めている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者を含めた職員・管理者は他のグループホームの職員と共に学習したり、交流する機会を持っている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と職員が必要な時に個別に話ができる環境がある。又、互助会で会費を徴収し、不定期ではあるが親睦会を開催して悩みやストレス軽減を図っている		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回「人事考課表」を元に職員の実績や努力を評価し、必要な時には、運営者との個別面談を行っている。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまではご家族からの相談が主であるが、入居後は家族の相談内容と利用者との見解の相違を言動・行動から見極め、本人に対するケアに重点をおいている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は困り事が主になりがちだが、どのような対応が良いのが答えに近づくようにしている。入居時はフェイスシートに添って何をホームに求めているかを見極めるようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援が本当に必要なのかを見極め、助言し、本当に必要ならば紹介している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の馴染みの物をなるべく持って来て頂くようにしている。生活の場の変化を理解できるように、納得ができ不安にならないように支援する事を一番最初のサービスとしている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な角度からの見極めを行い、様々な場面からの発見を大切にしている。介護者が「自分」に置き換えることなく、その方なりの事柄を受け止めている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族を上手く巻き込みながら、家族の持つ「後ろめたさ」を感じさせない関係作りをしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にしか分からない苦労もあると思うが、今を大切に頂き、これから先の事を話し、関係性を強める努力をしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンを通じ連絡を取っていただいたり、面会に来て頂けるよう働きかけている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話の時間を大切にしている。トラブルになりそうな場合のみ助言している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時候の挨拶の手紙などを送付し連絡を取り合い、気軽に遊びに来て頂けるようにしている。退居後の変化や相談事がないか伺うようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
	1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を必要としているのか、まず利用者を知る事を基本としている。見えてきた事を職員間で話し合いケアに結びつけている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一つの事柄に対し、違う角度から見た問いかけを繰り返す事により見えてくるものがあるため、面会時や家族懇談会の時に繰り返し伺う事もある。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメントシートを利用し、利用者の見極め、職員一人ひとりの気づきを大切にしている。	○	申し送りを徹底していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	立案・プラン見直しの際は、ブレインストーミング法(BS法)を取り入れ、全職員で話し合っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の変化により対応している。家族との連絡を迅速にとり話し合いを行い、職員の話し合いに取り入れ検討している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録やアセスメントシートに記入し情報を共有し、ケアの工夫に役立てている。		
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	准看護師を配置し、医療面での連携を密にしている。リハビリが必要な場合は近くの病院に受診できるようにしている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、意見等頂きながら協力関係を築いている。また、週2回ボランティアの方に朗読をお願いしている。	○	今後、警察や消防署との協力も図っていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネージャーは「くらし介護支援専門員協議会」の会員であり、話し合いの場を持てるようにしている。また、利用できるサービスの情報を得られるようにしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターと協働している。	○	今後、更に地域包括支援センターに働きかけて協働していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医との関係を大切に、持続できるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の医院ではデイケアも併設されており、認知症に対して多くの症例等把握された医師である。良い協力体制が取れていて、指示や助言を受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師である職員に24時間相談し対応している。又、週1回同じ看護師が健康管理の為に訪れている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医や看護師と話し合う機会を何度も持ち、相談しながら退院の時期をきめている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル期介護についての説明を行い、各家族から同意書等頂いている。又、状況の変化に伴い、その都度話し合いながら方針の決定を行い、その情報を主治医・全職員で共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	准看護師を中心にチームでの支援のあり方を話し合いながら見極めて行っている。今後の変化、考えられる事柄に対し勉強会を行っている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	支援の方向性が変わる恐れもあるが、情報提供が必要な場合は、より多くの情報が提供できるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方にとってのプライバシーとは何かとの視点に立ち、言葉かけや対応を心がけている。申し送りは他者に聞こえないように注意している。プライベートの高い書類・記録類は来所者・入居者の目につかないよう事務所に保管している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力の見極めをし、介護者の自己満足に陥らないよう、納得させるのではなく、気持ちの切り替えがうまくできるよう支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団の中において、一人一人のペースを崩さないよう、朝の挨拶により感情を汲み取りQOLを高めるよう努力している。また生活を送る事に対し、意欲を高めていけるよう努めている。	○	パーソンセンタードケアの考え方を勉強会で取り入れて行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居の気持ちを汲み取り、その人らしさに重きをおき、本人の希望を大切に支援している		
56	食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力の違いに合わせ、食事を楽しめるように配慮している。	○	準備をやりたがらない方がいて、入居者同士の関係性の悪化を招きかねないので、食事だけでなく準備も楽しんで頂ける様支援していきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌をしたり、食べたいおやつを自らコンビニに買いに行き用意する方もいる。喫煙に関しては場所を決めているが、自由にしていたいたる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パット・オムツに頼らないケアを目指している。排泄パターンを知る為に記録し、自然な声かけを心がけている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の入浴支援の力量の差があり、午前・午後にかたよったり、勤務体制によっては時間帯の調整が難しい事もあるが、入浴そのものは楽しめている。	○	職員の入浴支援の技量の差を減らし、入居者の希望に沿った支援を心がけたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人がしたいようにしている。昼寝や夕方寝なども自由である。タイミングをはかりながら必要時には居室に誘導している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	五感への働きかけを大切にしている。生活歴に合わせた役割を持って頂きながら、希望者は外出も行っている。		
62	お金の所持や使うことのできる支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はどこにおいているか、「なくした・とられた」の時のために隠す場所・よく置く場所を把握しトラブルを避けている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があれば頻繁ではないが自由に外出している方もいるが、能力的に危険を伴う方は同行にて外出している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別にドライブに出かけたりしている。又、家族旅行の計画を立てている方もいる。	○	行事計画に沿った事が多い。生活歴からくみ取り、行ってみたい所を取り上げて行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をする事はほとんどない。時候の葉書を出している。	○	本人の意向・希望を大切にしたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間の設定はなく、家族は自由に気軽に訪問している。	○	家族が楽しく集える場所としたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議において「身体拘束廃止委員会」を設けており毎回報告をしている。また勉強会で理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束の範囲や解釈も含めた幅の広い勉強会の機会を更に増やしたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路が玄関前にあり、自由さと危険から身を守る事が両立できる様、考え方の切り替えをどこに置くか模索中であるが、なるべく鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	監視・観察といったイメージではなく、したいようにしていることを見守り、手助けし支援している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	行動パターンを知り、物品の位置を変えたりと工夫する事を心がけている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災の為の避難訓練は行っているが、その他の事故防止について学ぶ機会がない。	○	現在ヒヤリハット記録の活用が出来ていないので、活用を徹底していきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会はひらいたが定期的には出来ていない。	○	全ての職員に徹底するように定期的な訓練・勉強会をひらいて行きたい。また、救命・応急マニュアルを作成し、対応していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災における避難訓練を定期的に行っている。	○	地震や水害についての避難について、又、地域の人々の協力を得られる働きかけについて取り組んで行きたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	予想されるリスクの高いことに関しては、家族と話し合い対応策に意見をいただきながらケアに結びつけている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色、食事量、行動の変化等に対し気づきができるよう心がけ、連絡ノートに記録し、対応を話し合っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう、名前、日付、服用時間を3回確認できるようにしている。全職員が薬の副作用等まで理解しているとは言えない。	○	認知症基礎疾患、薬などを含めた勉強会を行っていききたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や繊維質の多い食品を適度に摂れるよう支援している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ、見守り、介助と必要に応じた対応を毎食後行っている。必要時は、連携先の歯科医師に相談している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食から全粥に急遽変更するなどその時の状態により対応している。水分制限がある場合は、表に記入し全職員がわかりやすいようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具などはハイター、エタノールで除菌している。食材には、日付を記入し、賞味期限内の食品も必ず確認し調理にあたっている。		
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ビルの3階に位置しており、近隣の方が気軽に来訪できる雰囲気が出せない。	○	気軽に来訪いただけるようにエレベーター周りの雰囲気作りなど工夫していききたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消火栓ランプ等なく不快な光となるものはない。日光等の光に関しても配慮し、不快な音とならないよう職員の声のトーンにも気をつけている。季節感を取り入れるため季節の花を飾っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに集まることが多いが、入居者同士仲間作りができ、好きなようにしている。	○	一人の空間作りはは居室内になりがちである。自分の意思で過ごせる場所づくりをしていきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇などを持ち込んでいる。自分らしい生活を続けられるよう、入居者の心の居心地の良い場所を見つけられるよう心がけている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夜間など気温差に気をつけ、エアコンも必要に応じて温度調節しながら使用している。気になる臭いがないようゴミ捨てはこまめに行い、常に換気を心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに隠された身体機能低下に結びつかないよう気をつけている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	触ってはいけないなど「～は、だめ」という否定から始めないケア努力をしている。自立の形は「身体的」「精神的」と様々であることを全職員で話し合い一人ひとりへの支援を行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上の十分な広さのなかで、花や野菜づくりを行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは、グループホームとしては珍しく市役所、商店街、病院通りの市街地に位置しており、通院、散歩、買い物などに便利であり、その利点を活かした生活を送っていただいている。

認知症ケアの可能性を職員が楽しみながら知ることができる環境であり、また、音楽療法を学んだスタッフを中心とした音楽を取り入れたレクリエーションは入居者の笑顔が絶えない。

入居者、職員にとって居心地の良い空間であり、ホームである。